

令和五年度「水の週間」

第四十五回「全日本中学生水の作文福島県コンクール」入賞作品集

水について考える

福島県復興・総合計画課

あいさつ

水は、あらゆる生命を育み、多様な生態系を維持するとともに、大地に豊かな実りを与え、多彩で美しい自然環境をつくりあげるなど、私たちの生活には欠かすことのできないものです。

また、水は限りある資源であり、水環境を守ることは、私たちの豊かな生活を維持していくうえで不可欠です。

本県には猪苗代湖や裏磐梯湖沼群をはじめとして、豊かで美しい水環境が各地にあります。代々受け継がれてきた地域の宝を守り、後世に伝えていくことが重要です。

県では水に対する関心を高め、一層の理解を深めていただくことを目的に、八月一日の「水の日」及び、八月一日から八月七日までの「水の週間」の行事の一環として、「全日本中学生水の作文福島県コンクール」を昭和五十四年より毎年実施しています。

四十五回目を迎えた今回、県内の中学生から六百七十五編のご応募をいただきました。

今回は、学校での授業を通して感じた地域の水に対する思いや、災害時の体験で実感した水の大切さ、日常生活での節水やバーチャルウォーター削減のための具体的な提案などが述べられており、貴重な財産である水としっかり向きあつて真剣に考えていただいていることが伝わってくるものとなりました。

この作品集を読んで水について考えるきっかけにさせていただくとともに、皆さんが身近にある美しい水環境を将来に受け継いでいく貴重な人材となられるよう願っています。

結びに、今回の作文コンクールに応募された多くの中学生の皆さんや担当の先生方に心から御礼を申し上げます。

令和五年十二月

福島県企画調整部長 五月女 有良

優秀賞

目次

(作品は、各賞ごとの作者名の五十音順に掲載しています。)

限りある水について考える	須賀川市立第一中学校	三年	秋山 北透	1
世界を変える水	須賀川市立第一中学校	二年	伊藤 りん	3
父の仕事から学ぶこと	相馬市立中村第二中学校	三年	松下 心咲	5
未来を変える、一人一人の心掛け	葛尾村立葛尾中学校	三年	松本 彩楓	7
昆虫飼育から考える「水」の大切さ	葛尾村立葛尾中学校	二年	松本 晴樹	9

入選

かけがえのない水	相馬市立向陽中学校	三年	杉本 蘭奈	11
我が家は節水第一！	会津若松市立一箕中学校	三年	高橋 哲子	13
母なる湖を守るために	会津若松市立一箕中学校	三年	瀧澤 美月	15
今に繋がる大切な水への感謝	郡山市立行健中学校	二年	玉坂 美幸	17
猪苗代湖を守りたい	福島県立会津学鳳中学校	二年	二瓶 楓太	19
経済の基盤をつくる水	福島県立ふたば未来学園中学校	三年	原 百香	21
豊かな自然を守り続けて	福島県立会津学鳳中学校	二年	平野 有晏	23
短い断水	矢吹町立矢吹中学校	二年	三村 優奈	25
水への感謝	福島大学附属中学校	二年	守谷 史佳	27
猪苗代湖に繋がる未来	会津若松市立一箕中学校	二年	湯浅 心結	29

優秀賞

限りある水について考える

心に残っているCMがある。いつも、友達とラグビーをして遊んでいた少年が、母の具合が悪くなったことで、代わりに毎日水汲みをしなければならなくなった。ある日、少年が井戸へ行くと、事情を知った友達らが、水瓶をもって笑顔で待っていた。このことを経験した少年は、のちに水道整備の仕事をするようになった、というストーリーだ。子供たちが毎日重い水瓶を持って長い道のりを歩く。これは、今もどこかの国では日常の風景になっている。

人はさまざまな用途に水を使う。飲料水のほか、掃除や洗濯、入浴などの生活用水、農作物を育てるための農業用水など、人の暮らしに水は不可欠である。水道の蛇口をひねるときれいな水が出る、というのは日本では当たり前のことだが、他国からの視点で考えるとそれは衝撃の出来事なのである。僕は、インターネットできれいな水を使える国について調べたことがある。ほとんどの国がきれいな水を使えると思っていたが、きれいな水が使える国は予想よりずっと少ない

ことを知った。日本のように水を贅沢に使える国もあれば、井戸や水道がなく、日々大変な思いをしている国もある。この二つができてしまっている状況は決して良くない。安全な水は世界中に平等に届くべきだと思った。

日本でも、水をひくために大変な努力をしている。僕は以前、学校の総合学習で「安積疎水」について学習した。明治時代、水不足に悩まされていた安積地方（現郡山市）。そして、そのことについて困っていた人達は、遠くはなれた猪苗代湖から水をひこうと考えたのだ。この考えが明治政府に伝わり、大久保利通や小林久敬、ファン・ドールンを中心に工事が行われた。そして三年かけて安積疎水が完成する。これにより、安積地方の人々の生活は豊かになった。今の当たり前の生活は、昔の人達の努力の上に成り立っている。

僕は、水で苦労した記憶がない。水道の蛇口をひねれば安全な水が出る。もし手元に水がなかったとしても、店や自動販売機で簡単に水が手に入る。さらに、夏にはプールで泳ぐ

須賀川市立第一中学校 三年 秋山 あきやま 北透 ほくと

など、水を娯楽に使うこともある。娯楽に関しては、罪悪感なく水を大量に使っている。しかし、日々水で大変な思いをしている人達のことを考えると、申し訳なく思う。彼らにとっては、生きるための水なのだ。

一方で、僕たちは災害に見舞われることがある。それによって、断水などが生じ、水が使えなくなることがある。日本は、災害が起きた場合、国や市町村から支援を受けることができる。僕がまだ二歳のとき、東日本大震災があった。僕の家も水道が出なくなったが、幸い井戸水があったおかげで、トイレや風呂は使うことができた。しかし、井戸水は濁ってしまい、さらには放射能の問題もあったので、飲み水についての心配が大きかったそうだ。災害時は、日本の水も安全とは言えなくなる。自衛隊の給水車に並んで水を受け取る人達の映像を見たり、家族から当時の話を聞いたりして、水が使えなくなったときの大変さを知ることができた。災害時にどれだけ水が貴重か考えると、やはり、普段から水を大切にしなければならぬ。

日本には、安全な水を届けられる技術がある。だからこそ、それを世界中に広めてほしい。同時に、日本は水を大切にしている先進国であってほしい。日本に優れた技術があるならば、節水にもその技術を生かせるはずだ。例えば節水タイプ

のシャワーヘッドや、水の量を調節できるトイレのレバーなどがある。センサーで水を出すのも、節水には効果的だ。そういった小さな試みの積み重ねが、水が豊富な日本でも、水を大切にする気持ちを育みSDGsにもつながっていくのだと思う。世界中どの国でも、すべての人が安全な水を大切に使えるようになってほしい。

優秀賞

世界を変える水

須賀川市立第一中学校 二年 伊藤^{いとう}りん

みなさんは、現在世界で約二十一億人が安全な飲み水を使用できないことを知っていますか。

特にアフリカには安全な水を使用できない地域が多くあり、汚れた水を原因とする病気などで命を落とす子供がいます。

安全な水を使用できないと、健康面だけでなく、将来的なリスクも大きくなります。水汲みが子供の時間をうばってしまうからです。日課の水汲みから戻ると、学校へ行く時間も体力も残されていません。

最近話題になっているSDGsに、安全な水についての目標があります。六番目の「安全な水とトイレを世界中に」という目標です。

世界には、安全に管理されたトイレを使用できない人が約三十六億人もいます。安全なトイレを使用できないことも、大きな問題になっているのです。

私たちが住む日本では、安全な水とトイレを使用できています。しかし、世界には安全な水とトイレを使用できない人が多くいます。では、SDGsの「安全な水とトイレを世界中に」という目標を達成するためには、どのようなことをすればよいのでしょうか。

安全な水とトイレを使用できないことには、水不足や水質汚染も関係しています。これらを改善するために、毎日の生活から見直していきましょう。水不足を改善するためには、お風呂の水を洗濯するときにも使う、シャワーを出しっ放しにしないなど、節水を意識することが必要です。水質汚染を改善するためには、油をふき取ってから洗う、シャンプーや洗剤を使いすぎないなど、捨てる水をきれいにすることが必要です。

他にも、ある団体の活動を支援するために寄付を

行うこともできません。対象商品を購入すると、その売り上げの一部が寄付されるというプロジェクトもあります。

バーチャルウォーターという言葉聞いたことはありませんか。バーチャルウォーターとは、食料を輸入している国において、もしその輸入食料を生産するとしたら、どの程度の水が必要になるのかを推定したものです。

例えば、一キログラムのトウモロコシを生産するには千八百リットルの水が必要です。それらの穀物を食べて育つ牛肉を一キログラム生産するには約二万倍の水が必要になります。私たちが普段食べているものには、たくさん水が使われているという事です。

バーチャルウォーターを減らすことは、水資源を守ることや食糧自給率を上げることになります。食料を輸入することは、水を輸入することと同じだからです。

バーチャルウォーターを減らすために私たちにできることは、食生活の見直しです。肉は生産のためにたくさん水を使います。肉中心の食生活を改

善しましょう。地産地消を心がけることも重要です。

このように、私たちにできることはたくさんあります。まずは、水の問題について知り、知ったことから自分でできることを考え、実行していくことが大切だと思います。

水について調べてみて、水は世界のいろいろな問題に関係していることが分かりました。具体的には、食料や教育の問題などです。水の問題を解決することは、他の問題を解決することにもつながるのではないのでしょうか。

日本では、安全な水もトイレも使用することができます。しかし、世界ではそれが当たり前ではありません。私は、水の問題について知り、できることを考えました。これからは、できることを実行していきたいです。

みなさんも、水の問題について知り、できることを考え、実行してください。

優秀賞

父の仕事から学ぶこと

相馬市立中村第二中学校 三年

松下

心咲

今、私たちが住む世界には、水が当たり前に存在する。水がない世界なんて考えたこともなかった。そんな中で、私が水を意識し始めたのは、ごく最近のことだ。私の父は漁師をしていて、いつも「海を汚すことは絶対に許さない。魚も大切な生き物なんだ。」と教えてくれる。船の上で働いている父だからこそわかる、海洋汚染という環境問題だ。私が父の仕事の手伝いをして海へ行ったときも、たくさんのペットボトルや空き缶、卵のパックなど、海には必要のないごみが目についた。

二〇一一年、三月十一日、太平洋沖の地震によって、大きな被害をもたらした東日本大震災。福島県は、地震発生から三分後に大津波警報が発表されていた。私は当時二歳だったから、ほとんど記憶がない。だが、大きくなって母に聞くと、「お父さんは地震が発生してすぐ、海に駆けつけたんだよ。」と

教えてくれた、私は疑問に思い、「どうして。」と聞くと、「船が一番大切だから、船を避難させたかったんじゃないかな。」と言った。私はそれを聞いたとき、胸が熱くなったような気がした。父は、船も守りたかっただろうけど、一番は相馬の海を心配して駆けつけたのではないかと思ったからだ。一歩間違えたら命を落とす可能性があった中で、真っ先に海に向かった父の姿を想像すると、言葉に言い表せない切ない思いがこみ上げる。そして、それと同じに私は父を誇りに思った。

その後も何度も余震があり、福島県内の被害者はさらに大きくなった。相馬市では地震の影響で断水し。当たり前のようにあった水が使えなくなってしまう。私たち家族は、この断水が原因で、親戚のいる秋田県に避難した。当時の母は、妹を妊娠していたため、移動などすべてのことが大変だったとい

う。

秋田県に着いてからも、父はごみ収集車のバイトや海のゴミ拾いなどのボランティア活動をした。どこに行っても自然を守るために活動する父を、私はさらに尊敬した。

私にとって、水を使うということは、当たり前前の事だと思っていたが、それは当たり前ではなかった。水が使えるということは、私たちが知らないところで使えるように力を尽くしてくれている人がいるということだ。水道の水が断水すれば、それを使えるように直してくれる人がいる。海の水が汚れたら、海の生き物が危険にさらされれば、父のように海に駆けつけ守ろうとする人がいる。私はこんなことも考えずに生活してきたのだと改めて反省した。水を通して、人、生き物、自然などあらゆるものがつながっている。私の父もその大きなつながりの一端を担っている。もちろん、水を使う私たちも同じだ。

中学生の私には、水を大切に使う以外に、できることはないのだろうか。いや、できることはある。

例えば、父が行っている海でのごみ拾いなどだ。もちろん、ごみ拾いは海だけではなく、川でも町中でもどこでもできる。でも、私の住む相馬市は海の町だ。まずは自分の身近な地域からきれいにし、海の環境と生き物を守りたい。これらの活動を行うと環境汚染の対策、地球温暖化の防止、観光地への貢献につながると思う。

今回、この作文を書くことを通して、震災の時の父の話を思い出し、日常で使用する水から海の水まで、水の重要さを再確認することができた。だからこそ、これからは普段何気なく使っている水を大切に使うことはもちろん、父のようなボランティア活動に積極的に参加して、自分にできる小さなことから始めていきたい。そうすることで、少しでも相馬の海、日本の海を守り、父が気持ちよく仕事ができるように。

優秀賞

未来を変える、一人一人の心掛け

朝の学活の一分間スピーチで「アマゾンの環境破壊」について意見を発表した。アマゾンと聞いて場所もピンと来ず、どのような環境破壊が起きているのかもわからなかった。調べてみると、遠い地で起こっていることが私たちの生活に密接に関わっていた。

アマゾンでは、ものすごいスピードで大規模な森林が失われ、違法伐採が当たり前に行われていた。また、金の採掘のために大量の水銀を河川に流し汚染していた。その水を生活用水とする先住民族の身に異変が起こっていたのだ。もともとアマゾンで生活を築いてきた民族がなぜこうした被害を受けなくてはならないのか。悲しい気持ちでいっぱいになった。そして、森林が無くなると二酸化炭素が吸収されず、オゾン層が破壊され、地球温暖化が促進される。そうになると、降水や積雪の時期や量に差が生

葛尾村立葛尾中学校 三年

松本

彩楓

まれ、まとまった水資源が確保できなくなる。ここ数年、ニュースや新聞で、洪水や台風、大雪の被害が世界や日本各地で発生し、報じられている。アマゾンで起きていることは地球全体に関係していて、放っておけない問題なのだ。その現状を知り、私には何ができるのか、私も何か力になりたいと考えた。私たちと同世代や幼い先住民族の体や脳が思うように動かなくなり、不自由な生活を強いられている。今、自由に考えられる私が動かなくては、と思いついた。

ちょうど家庭科の授業でシュレッダーゴミの再利用について学習した。シュレッダーゴミはリサイクルしにくく、焼却処分しかできないため、二酸化炭素の排出に結びつく。そのシュレッダーゴミで再生紙を作れば、焼却される紙が無くなる。二酸化炭素の排出を防ぎ、再生紙を利用することで新たな紙の

無駄遣いをしなくなる。そうなれば、森林伐採を食い止め、水資源も守れるのではないか。このリサイクルを長い目で見ると、立派な環境保護の活動になる。早速、先生からアドバイスをいただき、シュレッダーゴミを水と混ぜ、ミキサーで粉碎する。そこへのりを混ぜる。麺棒で薄く伸ばし、紙状にする。完全に乾くとシュレッダーゴミで作った再生紙が出来上がる。授業では再生紙を裁断し、しおりを作った。そこに筆で文字を書き、オリジナルの心温まるしおりを完成させた。

私たちは地域を元気にしたいという思いから、葛尾村の復興交流館「あぜりあ」に学習成果物を掲示している。月に一回程度、張り替えて自分たちでスペースを管理している。作ったしおりは、そこに配置し、来館された方に自由に手にとってもらえるようにした。併せて、シュレッダーゴミの再利用で作ったことや、環境について考えたことを新聞としてまとめ、一緒に張りだした。まずは、村内の方々へエコな取り組みを周知し、環境や水について興味を持ってほしいと考えた。

加えて、シュレッダーゴミを利用した張子にも挑

戦した。風船にしおり作りの行程と同じようにしたシュレッダーゴミを貼り付け、十分に乾かす。風船を割ると、中身が空洞の立派な張子ができる。絵付けし、卯年やお正月の張子にした。可愛いインテリアになるので先生方や家族にも好評だった。来年度は、この張子をたくさん作り、販売していきたい。季節にあつた動物に元氣の出る言葉を書いても楽しい。今年度も学習成果物を「あぜりあ」で販売し、全額を社会福祉協議会に寄付した。今回は水や環境を守る目的で張子を作ったので、収入はアマゾンで衛生的な水を得られない方々のために寄付をした。生活を手助けする一歩に少しでも貢献したい。全校生徒三名の私たちの小さな活動ではあるが、積み重なれば、水資源を守っていけるはずだ。

葛尾村から福島県へ。日本全国、世界へと呼びかけ、発信していこう。一人一人の小さな心掛けが未来を変える。そう信じて進もう。

優秀賞

昆虫飼育から考える「水」の大切さ

葛尾村立葛尾中学校 二年 松本 晴樹

まつもと

はるき

「昆虫食が手軽に食べられるようになったなあ。」

新聞を見ると、イナゴやスズメバチ、セミ、コオロギが自動販売機に並んでいた。世界中でSDGsへの取り組みが進められる中で、昆虫食が話題になっていることは知っていた。気になって調べてみると、クッキーや瓶詰め、食べやすいよう様々に加工された昆虫が売られていた。また、大手企業がコオロギ飼育に参入し、一ヶ月ほどで効率よく成虫までに育てているというニュースも見つけた。

私は昆虫が大好きだ。住んでいる葛尾村も自然に囲まれ、昆虫採集をするには最適だ。水と空気がきれいな村だからこそ、たくさんの昆虫に出会える。自宅でもコオロギ、カマキリ、トカゲ、カマキリの餌用にゴキブリを飼育している。そのコオロギが今、昆虫食として注目されている理由は何なのか知

りたくなった。

検索するとコオロギは、食糧不足や環境への負担を減らすことができるスーパーフードだった。そこで、バーチャルウォーターという単語が引っかかってきた。バーチャルウォーターとは、輸入食糧を自国で生産するとしたら、どの程度の水が必要かを推定したものだ。私の大好物の牛丼一杯には、水が約二千リットルも使われているそうだ。牛を育てるには、穀物が必要で、その穀物を育てるために大量の水が必要となる。食卓で提供される料理には目には見えない水が何千トン、何万トンと使用されているのだ。食べ残しをすることで食料はもちろん、育てるために必要だった水も無駄にしている。その背景を理解すること、昆虫食が栄養やコスト面で関心を育てる理由が分かった。牛や豚に比べて、昆虫を育てるには水の量も微量で済むからだ。実際に自宅

で育てている約百匹のコオロギも、僅かな水ですくすく育っている。地産地消することでもバーチャルウォーターの量は格段に減る。

そこで私は将来、葛尾村に昆虫飼育施設を建てたいと考えた。昆虫について知ってもらい、水の大切さ、バーチャルウォーターについて関連付け、学べる施設にしたい。また、昆虫食を提供できる飲食スペースも作りたい。昆虫イコール気持ち悪いというイメージが払拭できるように世の中の昆虫の明るい可能性を発信していきたい。葛尾村の特産品である凍み餅とのコラボメニューも取り入れたら面白そうだ。私は家庭科の授業で、凍み餅を使ったアレンジレシピを考案してきた。凍み餅にホットケーキミックスを混ぜてワッフルメーカーで焼いた「凍みモックル」などを作った。使用するホットケーキミックスをコオロギパウダーに変えれば、環境のことも考えた特産品が誕生する。昆虫食の美味しいメニューの開発もしていきたい。学習で学んだことをアイデアに繋げ、昆虫食の手軽な普及を目指したい。水がきれいで産業が潤う葛尾村。阿武隈山系の超軟水という良質の水が流れる。ニット工場、エビの養殖に

胡蝶蘭の栽培、養鶏場や牧場などが村にはある。どの企業にも水が不可欠で、無くなっては困る。永久ではない村の水を末永く使うために、シャワーを出しっぱなしにしない、トイレを流すときは小にするなど、当たり前前のことを実践する。バーチャルウォーターの存在を考え、残さず食べる。一人一人が自分の行動に責任を持つことが未来への架け橋となる。私たちは今ある資源を守る義務があるのだ。

高瀬川のせせらぎ、緑が青々と茂る五十人山、聞こえてくる虫の声。この先もずっとこの景色を見たい。昆虫飼育を続けながら、葛尾村、日本、世界の未来を考え、歩んでいく。昆虫の施設を作る夢を叶えるため環境を守る生活を送り、村に貢献できる人間になりたい。人間と昆虫が共存し、地球に優しく循環して生きる世の中を私が作っていきたい。

入選

かけがえのない水

今日も飲んだおいしい水。今日も使ったきれいな水。私達の生活に「水」は欠かせないものです。家や学校で当たり前のように使っている水ですが、この作文を通して水についても一度よく考えさせられるきっかけになりましたし、当たり前が当たり前ではないんだと痛感しました。

二〇二二年三月の地震では、相馬市や南相馬市などを中心に福島県の様々な地域で大きなゆれとたくさん被害を受けました。津波による大きな被害はなかったものの、停電や断水の被害に襲われました。断水は約五日程からほとんどの地域で水を送ることができるようになりましたが、その後も水ににごりがあったため、飲み水には使えませんでした。この災害で水の大切さを改めて実感しました。まず、水が出ないと料理が作れない、トイレが流れな

相馬市立向陽中学校 三年 杉本 蘭奈

い、お風呂には入れない、洗濯ができないなど、生活のほとんどが水と関係していて、家庭で一人が一日で平均二百四十リットル程度もの水を使っているという調査も知り、これからは、節水を心がけるようにしようと思えました。また、この地震の被害を聞いた親戚の人達が、水やレトルト食品、お菓子などの物資をたくさん送ってくれたときは、とても嬉しく、災害時の助け合いが心の助けにもなったな、と今となっては思います。特に水の物資は、何十箱も送っていただき、久々の温かい料理を食べることができました。普段はあまり深く考えることのなかった水についてでしたが、やはり私達の生活に欠かせないものであり、やっと水が出たときには、今までの水では感じなかったような嬉しさとありがたさを実感しました。水が出て、私はもちろん

ん、私の家族もとても喜びました。水はこんなにも私達になくはならないものだ、そして、蛇口から水が流れている光景も新鮮に見えました。

水のありがたさを実感すると共に、世界で見ると、世界人口の約七十七億人に対し、約九億人が汚れた水しか飲むことができないということです。さらに、約二十五億人は衛生的なトイレを利用できないといえます。日本では清潔な水道水が出てくるのが普通になっていますが、今もなお、清潔な水を利用することができない人がいると考えると、それは少しづつでも清潔な水をすべての人に届けられるようにするにはいけないと思います。今、世界中の人々が取り組むべきSDGsの目標6でも「安全な水とトイレを世界中に」があります。SDGsは持続可能な開発目標であり、私達がこの地球で暮らし続けていくための目標です。そこに「水」についての項目があるということは、今この問題について考えなければならぬということだと思います。なぜなら平等な世界をつくるのが目標だからです。世界の人々のために私達も生活でできることがある

と思います。例えば、歯磨きのうがいするとき水を出しっぱなしにするのを防ぐためにコップに水を汲んでうがいをしたり、手を洗うときには、少しの間でも、石鹸で洗っている間は水を止める、など身近なところから意識することだと思います。

最後に、水は生物にとって大切なものだということは漠然と思っていました。ですが、今は「漠然と」ではなく「判然と」の考えになりました。必ず資源には限りがあります。たとえ水一滴でも大事に使おうと意識させられました。

入選

我が家は節水第一！

私の家は、節水第一です。うっかり水を使いすぎると、出なくなることがあるのです。この現代日本でそんなことがあるのかと思われそうですが、気をつけないと、我が家は普段の生活ができなくなるのです。

私の家の水は、井戸から引いています。井戸があると、夏は冷たくておいしい水が飲み、冬は水仕事をしても手が冷たくならなくて、快適な暮らしができるそうです。しかし、それは私の家には当てはまりません。使いすぎると水が出なくなってしまうのです。お風呂に入ろうとか、食器を洗おうとか思っても、水が出なくて、お風呂には入れないし、汚れた食器を洗えないという、なんだか時代から取り残されたような事態が起こります。「どうすれば水を節約しながら快適に暮らすことが

できるのか？」

これが高台に建つ我が家の大きな課題です。私は、家で水に困った経験があります。年頃の中学生にとって「水が出なくなつて、お風呂に入れなくなる」のは一大事です。

ある日、いつも通り使っていた水が出なくなりました。「なぜ？」と思いつながら、いろいろ考えてみると、お風呂の水を溜めようと出さずばなしにしていたことが原因でした。お風呂からは水が溢れてしまい、一方、井戸の水は底をついていたのです。結局、その日は水が出ませんでした。

しかたなく、日頃から溜めてある水を沸かして何とか過ごしましたが、とにかく水を引けるところから引いて凌ぎました。だけど、井戸水が出なくてシャワーも使えません。非常に不便な一晚でした。

会津若松市立一箕中学校 三年 高橋 哲子
たかはし あきこ

正直、今まで経験したことのない異常事態発生となりました。お風呂は何とか我慢するとしても、困ったのは台所での水仕事です。とくに、「水が出ないせいで食器が洗えない」というのは、不衛生な感じ、気分的にも嫌になります。

お風呂の件で、家の中に溜めてあった水をホースで引くのは、とてもめんどくさいと思えました。そこで思いついたのは、ペットボトルに溜めてあった水を使うことでしたが、これは非常に効率が悪いです。だけど、食器を汚れたままにしておくのは、もっと嫌でした。幸いなことに、我が家には強清水という水の名所から汲んできた水がポリタンクに入っていたので、それも使って洗うことができました。

まさか、お風呂や食器洗いでこんなに水に困ることがあるなんて、考えてもみませんでした。この経験から、私は家での水の使い方をまじめに考えました。何をおいても、水道から離れるときは必ず水を止めてからにするということでした。出しっぱなしにして他のことをすると、水を出していたことを忘れ

てしまうからです。でも、お風呂は水が溜まるまで付いているのは難しいです。まだ大丈夫と思って油断していると、すぐに溢れてしまいます。そこで、水量を検知し適量になったらわかるような機器を設置することを思いつきました。水が自動的に止まればいいですが、そうでなければ、適量を知らせるアラームが鳴るような装置があればいいと思えます。これはお金がかかるので、これから家族で相談です。

まずは水を止める、これを実行すれば、我が家の水が出なくなることはないでしょう。とにかく節水を心がける、これに尽きます。今回の出来事で、私は水のありがたみをしみじみ感じました。我が家の事情にもよりますが、いかに水が私たちの生活にとって大切なものかを実感した一日でした。

「水」は出てあたりまえ、いつでもすぐに使えるものかと思っていきましたが、いざなくなるとき、「あのとき節水していれば」と思っても手遅れです。そのとき後悔しないためにも、日々節水を心がけていくつもりです

入選

母なる湖を守るために

猪苗代湖。福島県のほぼ中央に位置し、県内でも有数の観光地となっている。夏には多くの観光客が訪れ、湖水浴やキャンプを楽しむ様子が見られる。冬は白鳥の越冬地となり、その美しい姿を見ようと足を運ぶ人たちも数多くいる。

僕の親戚は猪苗代町に住んでいるので、猪苗代湖沿いの道路を通って遊びに行く。夏休みには、猪苗代湖で泳いでいる人たちをよく目にする。その度に、どうしてもこんな汚いところで泳ぐことができるのだろうかと思っていた。僕の中では、猪苗代湖は決してきれいな湖ではなかった。だから、昔はきれいな湖で、水質日本一になったこともあると母から聞かされたときは、本当なのかととても驚いた。

猪苗代湖の水質は、二〇一八年の調査では一八八湖沼中第九位、二〇一九年には第十四位となってい

る。でも、一九九〇年から一九九三年は四年連続で、確かに日本一になっていた。いったい何があったのか。なぜこんなに汚れてしまったのか。疑問に思うことはいくつもあった。

考えてみれば、会津若松市は猪苗代湖から水を引いて生活用水にしている。学校の近くにある浄水場で浄化された水が各家庭に届けられており、その中には僕の家も含まれている。猪苗代湖は多くの地域で利用され、福島県民の生活を支える命の水なのだ。

猪苗代町に住んでいる人たちにとって猪苗代湖はどんな存在なのだろう。僕は改めて親戚の人たちに聞いてみた。

「猪苗代湖は、魚が採れたし昔から生活の一部であり、切っても切り離せないもの。そして、四季の

会津若松市立一箕中学校 三年 瀧澤 美月

移ろいを感じさせてくれる原風景で、心のより所でもあるんだ。」

みんな、地元への愛が深い。どんなに汚れていても猪苗代湖は、地元の人たちにとってはかけがえないものなのだ。同じように恩恵を受けていながら、僕はそのありがたさを感じたことはなかった。汚いの一言で、自分とは関係のないものと思いついでいた。

なぜ、こんなにも汚れてしまったのか。その原因の一つは生活排水だ。台所の洗い物、お風呂や洗濯機などの排水といえは、僕たちの生活とは切り離せない問題だ。つまりは、僕も猪苗代湖を汚していたことになる。自分も汚れの原因になっていながら、汚いと思うだけで何も関心をもつことなく過ごしていたのだ。

そうか、この無関心が猪苗代湖を汚していたのだ。ならば、今からでもできることはある。調理くずや食べ残しを流さない、食用油は使い切る、汚れや油は拭き取ってから洗う。ちよっとした工夫で汚れは減らせる。ささやかな努力が、猪苗代湖を、そ

して自分たちの生活を守っていくことになるのだ。

自然を破壊してしまうことは簡単だ。しかし、それを元に戻すのは大変なことだ。国語の教科書に載っていた田沢湖の話に、「環境を変えてしまうのは一瞬。だが、それを元に戻すには、気の遠くなるような時間と労力が必要である」とあった。その通りだ。完全に元の状態にすることは不可能かもしれないが、少しでも元の状態に近づけるために、これから多くの時間と労力、さらに資金などをかけていかななくてはならないと思う。

悪化を食い止めるために、すでに多くの人がボランティアとして水質改善に携わり、漂着水草の回収をしていることを知った。

僕たちができるのはほんの小さなことかもしれないが、この事実を多くの県民が知り、多くの人ができることから行動に移していけば、いずれは大きな進歩へとつながっていくはずだ。

僕も、自分にできることを考え、猪苗代湖がもたらしてくれる水の恵みに感謝し、一滴の水でも大切に使っていこうと思う。

入選

今に繋がる大切な水への感謝

郡山市立行健中学校 二年 玉坂^{たまさか} 美幸^{みゆき}

夏休みに、久しぶりに郡山駅に行きました。そこで見つけたのが、二階の新幹線ホームに続く階段にある大久保利通とファン・ドールンの人物画です。家に帰って調べてみると、日本遺産に認定された安積疎水（一本の水路）のストーリーのPRをするために、平成二十九年から描かれている事が分かりました。開拓から二百年たった今、PRしている理由は、水の大切さを伝えたいからだと思いました。

明治七年、当時キツネやタヌキがいた安積原野に遠い猪苗代湖から郡山に水をひくために、大久保利通、中条政垣、ファン・ドールンなどのたくさんの人々が協力をして開拓を始め、今の郡山の水源がある事を小学校で学びました。私は小学生の時に、中央公民館主催の「はやまつ子」というクラブで「岩倉具視と麓山の滝」という民話の語り部をしたり、

安積疎水のゆかりの地を巡ったりした経験があったので、懐かしくなりました。語り部として話したのは、明治十五年に安積疎水の工事が完成した時の話で、「疎水は農業を盛んにしたり、工場の動力源として利用するものだ。」という、岩倉具視右大臣の熱い思いが伝わる内容でした。また、ゆかりの地の十六橋水門や沼上発電所の資料を読み返してみると、当時の先人の開拓の夢や最高技術が集結されたものである事を改めて理解する事が出来ました。私たちはこのような先人たちのストーリーを決して忘れてはいけない事だと思いました。

近年地震が多く、いつ・どこの地域で断水になるか分かりません。私は小さかったため覚えていませんが、福島県沖地震の東日本大震災では断水になり、給水車に並んで水を確保したり、汚染が心配

で、ミルクを作るための水を県外からペットボトルで購入したり、水不足で苦労した話を、地震の度に、両親から聞いています。

また日本は蛇口をひねればあたりまえのように水が出て使えます。しかし、世界の水について調べてみると、地球のうち使える水が〇・〇一パーセントだという事、日本は世界的にみて恵まれた環境を持つわずかな国の一つである事を知りました。また、世界が温暖化していて、水が足りなくなる事も知りました。

そこで私が出来る取り組みについて考えてみました。一つ目は、家庭の油をそのまま流さない事です。油で汚染された水を浄化するにはさらに、大量の水が必要となります。二つ目は、節水です。使用しない時には蛇口を閉めるようにします。出しゃばなしにすると三十秒で約六十リットル（コップ三杯分）の水が無駄になるからです。三つ目は、地球温暖化防止です。使っていないコンセントを抜いたり、エアコンを適温にしたりする事を心がけたいです。

社会でも「SDGs（持続可能な開発目標）」のさまざまな取り組みがされていて、小学生の時に見学した飲料水の工場でも、節水排水の工夫がされていました。

私は、先人が苦労して開拓してくださったお陰で郡山の水が豊かになり、農業や産業・私たちの暮らしが発展した事を忘れないようにしたいです。これからも、今を生きる私たちが「一本の水路」のストーリーを後生にも繋げていく事が大切だと思います。郡山市民として自分にできる事に取り組んで、水を大切にしていきたいと思います。

入選

猪苗代湖を守りたい

ぼくが住んでいる会津若松市は、猪苗代湖という湖に接しています。水質ランキング一位になったこともある、とてもきれいな湖です。小さい頃から、湖水浴、遊覧船、白鳥観察など、何度も遊びに行っています。また、猪苗代湖は会津若松市の水源の一つであり、滝沢浄水場を通してぼくたちの家に送られています。猪苗代湖は、ぼくたちの生活になくてはならない存在です。

秋ごろ、学校でいくつかのテーマの中から興味のあるものを選んで研究するという授業があり、ぼくは猪苗代湖の水質の変化について調べることにしました。事前に受けた講座で猪苗代湖の水質が年々悪化しているということを知り、その原因が気になったからです。

猪苗代湖には、昔の硫黄鉱山の地下水や沼尻温泉

福島県立会津学鳳中学校 二年 二瓶 楓太

の源泉などの強酸性の水を含む長瀬川が流れ込んでいます。長瀬川には鉄やアルミニウムが溶け込んでいて、猪苗代湖の中の有機物やリンと結びついて湖底に沈みます。そうすると、それらを栄養とする植物プランクトンが発生しにくくなります。この自然の浄化作用のおかげで、猪苗代湖の水はきれいに保たれていました。自然に囲まれているからきれいなんだろう、となんとなく思っていました。いろいろな条件が重なって、浄水場の凝集沈殿池のような仕組みができていたことを学びました。自然の力は本当にすごいなと思います。

しかし、二十年前くらいから、酸性だった湖水は中性に近づいてきていて、自然の浄化作用が弱まっています。原因としては、「強酸性の地下水の減少」「水草の腐敗」「有機物を多く含む生活排水の

増加」などが考えられるそうです。これらの原因に
対して、ぼくは何ができるか考えてみました。

「地下水の減少」については、原因がまだよくわ
かっていないそうです。地下水がどんな時に増え
て、どんな時に減るのか、地下水の成分に変化はあ
るかどうかなど、ぼくにも調べられることがあると
思うので、授業の中で引き続き取り組みます。

「水草の腐敗」については、湖岸に打ち上げられ
た水草を回収するボランティア活動があるようなの
で、参加してみたいと思いました。

「生活排水の増加」については、ぼくにもすぐに
できることがあります。ぼくは入浴中にシャワーを
出しっぱなしにすることがあるので、お風呂での排
水を減らすために、シャワーをこまめに止めなが
ら使います。台所の排水を減らすために、食べ残しを
しません。また、母が食器の汚れを拭き取ってから
洗っているのです、これからは、ぼくも手伝います。

この他にも、この水の作文コンクールのように水
の大切さを意識する取り組みに参加することも大事
だと思いました。これからも積極的に取り組んでい

きたいです。

普段使っている水はどこからきているのか、水源
をきれいに保つにはどうすればいいのか、自分には
何ができるのか、などを考えることで、より水の大切
さを感じるようになりました。海外には飲み水も
ままならない国がたくさんあります。飲み水を大き
なタライに入れて頭に掛けて学校まで運んでいる子
供達もいます。ぼくたちは学校の水道の蛇口をひね
ればすぐにきれいな水を飲むことができます。

飲み水や、お風呂やトイレなど、当たり前のように
に水を使うことに感謝をして、この環境を守って
いくために自分にできることを実行していきます。
自分の水の使い方一つ一つがどんなことにつながる
のかを考えて、未来を意識した生活をしていきたい
です。

入選

経済の基盤をつくる水

福島県立ふたば未来学園中学校 三年 原 はら 百香 ももか

「安全な水とトイレを世界中に」というSDGsの項目は、何番目に対処すべきだろうか。

水問題の現状は、世界人口の四〇%以上の三十六億人が水不足に悩まされている。さらに、二〇五〇年には、世界人口の半数が水不足になってしまうという予想が掲げられている。

その問題の原因は三つある。まず一つ目は、「人口増加と産業発展」だ。人口が増える事に比例し、使う水の量も増えていく。その利用において、排出される工業廃水や生活排水が河川や海、地下水の汚染にも繋がっていく。二つ目は「気候変動」だ。温暖化は、降水量だけではなく、雨の強さや、頻度も変化させていく。気候変動が引き起こす大雨による水害や干ばつで、水が必要な時に必要な場所で効率よく利用できなくなる。また、三つ目の「開発によ

る水源破壊」は、都市化によって起きる。森林伐採によって、水を蓄積していた森が減少する事が、主な水源破壊となっている。よって、水問題は、ほとんど都市が発展する事と同時に進行になっているのだ。だが、発展途上国も、水不足や水汚染が起きているのは、なぜだろうか。特に、それが酷い国はアフリカだ。アフリカの現状として、年間約三十万人、毎日約八百万人以上の乳幼児が汚れた水を原因とする下痢症で亡くなっている。病気の後遺症で、将来的なリスクもあるという。アフリカの水は、動物の糞尿が混ざっており、不衛生どころか飲料水として使う事さえ危険だ。でも、水を飲むために、一日の大半を水汲みに費やす子供達。そのため、彼らには勉強する時間がない。子供達から将来を奪ってしまふと、大人になれば、安定した給与が得られず、

悪循環になってしまふ。今は、少しずつNPOやNGOが水道施設を導入しているらしい。水道施設やインフラが整備され、子供達の健康が確保できたら、留学を義務化すれば良いと思う。そして、留学期間を指定し、期間が終了すれば、母国（発展途上国）が先進国になれるためのプロジェクトを留学生に作成させるのだ。悲惨な状況を知っている彼らならば、よりよい提案をしてくれるだろう。留学生はプロジェクトにより、企画を確立させるために、つけないければいけない様々な分野の力をつけられて、有望な人材を育成できると思う。また、留学のために必要な金は、国から支援すべきだ。何かやろうとしている人でも、金が足りないせいで、夢を諦めざるを得ないという事が多い今、積極的に、国、企業、学校から金を支援するべきである。国は、SDGsで問題を提示しているだけで、ほとんど何も実行に移していない。そして、以上の現状から、SDGsにある項目の中で、十六個が、水問題によって引き起こされているといえる。

私は、中学生で、今は、ほとんど何もできない

が、たくさん経験と知識を積み、環境を少しでも悪化させないよう、日々、節約しようと思う。私は、水不足という問題に直面してから、将来ジャーナリストになりたいと思っている。私は、世界をまわって、世界の将来展望と目標を掲げたいと思っている。そして、人々が生きやすく、住みやすい世の中を実現するように問題の解決策を挙げたいと思う。二〇三〇年は、世界の分岐点といわれている。私は、その時世界に貢献できるような人材になる。

入選

豊かな自然を守り続けて

水は私たちが生きていくために大切なものであり、暮らしを豊かにしていくために必要不可欠なものである。水を必要としているのは私たち生き物だけでなく、自然でもある。

私の地元である檜枝岐村には、尾瀬国立公園がある。本州最大の高層湿原であり、自然の宝庫と言われている。私も毎年訪れているが、特に好きなのは、タテヤマリンドウの紫とワタスゲの白で、湿原がさわやかな色合いになる春から初夏への移り変わりである。季節によって様々な表情を見せてくれる尾瀬が大好きだ。そしてその尾瀬の湿原は、毎年半年以上もの間、雪に埋もれ、春を待ちわびている。豊富な水資源があるからこそ、美しく保たれているのである。

四季折々の植物が見られる美しい湿原だが、今の

福島県立会津学鳳中学校 二年 平野 有晏

ような姿は数千年以上にもなる自然の営みによるものである。周囲の山から土砂が流れ込んで川をせき止め、水はけの悪いところが湿地となり、水生植物が繁茂した。この植物は、枯れても完全に腐らずに水中で堆積し、「泥炭層」となった。泥炭層は年間を通して一ミリ弱しか堆積しないため、気が遠くなるような数千年という年月をかけて低層湿原が発達していった。そこにミズゴケが発育し、枯れて堆積して盛り上がるの泥炭層となり、今の湿原のようになったと言われている。今、私達が見ることが出来る湿原が、このような歴史の上に成り立っているとは、思いもよらなかつた。

尾瀬には自然を守るために浄化槽が設置されている。福島県側には尾瀬沼の東岸と尾瀬ヶ原の見晴、温泉地区の山小屋や公衆トイレにある。浄化槽で微

生物が汚水を分解し、汚泥と呼ばれる固形分と処理水と呼ばれる液体に分離されている。汚泥は尾瀬沼地区にある汚泥処理施設で脱水、乾燥処理され、専用の缶に入れて尾瀬の外へ運ばれるそう。処理水は、パイプラインを通って尾瀬の外の川へ流される。もしも浄化槽がなく、ずっと汚水が尾瀬沼や川に流れ込んでいたら、尾瀬やこの豊かな自然はなくなっていたかもしれないと考え、とても恐ろしい。同時に、浄化槽を尾瀬に設置することを考えた先人や、維持管理をしている人々の努力にも感謝する。

私たちは尾瀬の自然を守るために、水を守る必要があることが分かった。私はこれから先も尾瀬が豊かな自然のままであってほしいと思う。そのためには、私たち自身がすこしずつ行動を変えていかなければならない。

一つ目はチップ製のトイレにしっかりお金を入れることと、トイレトペーパーの使用量を少なく適正な使用量にすることだ。トイレトペーパーの使用量を減らせば、処理が楽になり、処理の費用も減らすことができる。

二つ目はルールにもなっているが、尾瀬の中で洗剤や石鹼の使用をしないことだ。日常生活でも使用量を少なくすることも大切だ。一度川に洗剤が流れると魚が住める状態へ戻るのに約二百リットルの水が必要だそう。

美しく豊かな自然の宝庫「尾瀬」。私は、尾瀬を通して水についてよく考えることができた。見慣れているあの豊かな自然は、長い年月や守ってきた人々、そして美しい水があったからこそ大切なものだと思えることができた。美しい水を保つことで自然が守られていくということを忘れず、水を大切に生活していきたい。尾瀬の水は、日本海にも、太平洋にも流れているのだ。

「あなたが見ている尾瀬に美しく豊かな自然がありますか。その自然は長い年月をかけてつくられ、守られてきた大切なもの。そして、それを支えてきたのは美しい水。」

このことを忘れずに、この美しく豊かな自然がまた次の世代へつないでいけるよう、問いかけながら行動していきたい。

入選

短い断水

矢吹町立矢吹中学校 二年 三村 優奈

「ゆなつ。」

と母が私を呼ぶ声がする。その声で目覚めた私は、今までに体験したことのない、大きな揺れに襲われた。暗闇の中でけたたましく鳴る警報が、私たちの恐怖心をさらに大きなものにした。

令和三月二月十三日。私たちの住む福島県は、マグニチュード七・三、最大震度六強の大地震に見舞われた。真夜中に起きたこの地震により、死傷者や住家倒壊などの甚大な被害が生じた。

大きな揺れが収まり、一階に下りると、浄水場に勤めていた父は、すでに招集がかかり家にいなかった。大きな地震のときに父がいはいないものことのはずなのに、この日は頼りになる父がいはいないことに、とてつもない不安と恐怖を覚えた。自分の心臓がどくどくと波打ち、手足が震えているのがわか

る。次第に目がじんじんと熱くなり、涙がこみ上げてきた。その時、

「大丈夫、大丈夫。あ、水出るかな。」

と母が言った。停電で電気がない真っ暗闇の中、あせりながらも、私のために平穩を装う母を見て、はつと我にかえる。

「そうだ、私も落ち着かなければ。」

大きく深呼吸をして、混乱した心を落ち着かせた。

私と母は、断水に備えて水を確保することにした。洗面所の蛇口をひねると、勢いよく水が流れ出てくる。まだ水が出ることに、ひとまず安心した。しかし、この水もいつ止まるかわからない。急いで家中の水を集めた。お風呂、空のペットボトル、鍋、バケツ、タライなどにどんどん水をためていく。途中でシャワーの勢いが弱まったと思うと、次

々に家中の水が出なくなっていた。頼りなくチョロチョロと流れる水を見て、

「水が出るうちにトイレに入っつて。」

と母が言った。寝ていた弟も起こして、トイレに入らせる。「これからは水が使えなくなるのだ」と再び不安が私を襲った。

その後すぐに水は出なくなった。お風呂には半分の水がたまった。母は、

「お風呂に入ったときに、水を抜かなければよかったです。」

と、数時間前のことを後悔していた。

停電で電気がつかなかったが、キャンプで使っていたライトで最低限の明かりは確保することができた。ライトで照らされた部屋は家具が倒れ、物が散乱したひどい状態になっていた。しかし、まだ完全に動揺がおさまらない私たちは、それらを片づけることができなかった。

その後も、さらに大きな余震におびえながら復旧を待った。幸いにも、停電はその日のうちに復旧し

たため、祖父母や近くに住んでいる親戚、友達などと連絡をとり、無事を確認した。話しているうちに、私も母も安心することができた。

夜が明けると、断水も解消した。蛇口から水が出た瞬間を、私は一生忘れないだろう。今までの不安と恐怖から解放され、はりつめていた糸が切れたように緊張がほぐれていく。ほっと息がもれ、重苦しかった心がどんどん軽くなっていくのがわかった。

「水が出る」、当たり前前だった、たったこれだけのことで自分がこんなにも喜んでいいる。感動している。その事実にただただ驚き、普段感じない水の大切さ、尊さ、素晴らしさを知ることができた。

一日も、半日もない短い断水だった。でも、それだけでも水が出ない生活は不便で、怖くて不安になる。そして、そんな短時間で解消したのは、父をはじめ、水に関わる仕事をされている、たくさんの方々のおかげだということをお忘れずにいたい。これからは、決して当たり前ではないこの水を、大切に使うていきたいと思った。

入選

水への感謝

福島大学附属中学校 二年 守谷^{もりや} 史佳^{ふみか}

近所のサイクリングロードをゆつくりと散歩する。私の楽しみのひとつだ。春はゆれる菜の花に桜堤、冬は白鳥たちが岸边に憩う姿など、四季折々の景色が見られる。どの季節にもゆったりと流れる阿武隈川は、川底まで見えるほどきれいな水だ。川の流れを横目に心地良く歩みを進めていると、突然どこからともなく嫌な臭いがただよって来た。一体何事かと思い辺りを見回せば下水処理場だ。私達の使った水のなれの果て、最後の姿。大きな貯水池に濃い緑の水がなみなみと入っている。バクテリアの水そうかなと思いつつ足早にそこから立ち去る。自分達の使った水を、名前も知らない誰かがきれいにして自然に返してくれていることに頭が下がる思いでいっぱいになる。

そう言えば、毎日使う水の始まりについて、浄水

場見学へ行った時のことを思い出した。水源となる摺上川ダムの風景はとても美しかったことを覚えている。青々として連なる雄大な山々、山々を写しこみ、なみなみと水をたたえるダムの風景は本当に美しかった。

福島市の水はモンドセレクション最高金賞受賞、国際味覚審査機構優秀味覚賞受賞の経歴を持つ。美しい水源の風景を見れば、なるほど納得だ。摺上川ダムの上流には、住宅地や工場がなく、水質にも恵まれているそうだ。水源をきれいに守るためには周りの環境を守っていくことが大切で、地域の人々が水源保全活動として、いろいろ活動してくれている。水の始まりを守る誰かがいることにも感謝だ。そもそも、水とは何かと考えてみた。飲み水、お風呂の水、洗濯の水、水遊びの水。私にとって水と

は、生活の水だと思う。地球上の水は約十四億立方キロメートルで、私達が生活に使うことができる水は、川、湖、沼、浅層地下水だけで、全体の約〇・〇〇八パーセントだそう。お風呂一杯分の水を地球全体の水とすると、生活に使える水はだいたい大さじ一杯分だとか。地球上の生き物がその水を必要としていると考えると、思っていたよりはるかに少ないものだと改めて考えることができた。

私のよく見るテレビ番組では、世界の様々な姿を放送している。そもそも水道や地下水などもない地域では、雨水をためてそれを飲用水としたり、水がないためか、お風呂がないなど、今この世の中にあることが信じられないような環境で生活している人々がいることにいつも驚かされる。

一方、私の生活はどうだろうか。蛇口をひねればいつも当たり前、安全でおいしい水が際限なく流れていく。飲み水や料理はもちろん、洗い物、洗濯、お風呂、トイレを流す水まで、生活の全てに安全でおいしい水を使っている。水の大切さについてあまり考えたことのなかった私も、さすがにいたた

まれない気がしてきた。

水は命に関わる自然の恵みだ。人は水を飲まなければ三日で死んでしまう。果たして、飲める水は地球上にほんのわずかしかない現実を、水の始まりから、終わりの姿まで想いをめぐらすことで、改めて考えさせられた。

蛇口をひねれば流れ出てくる安全でおいしい水。地球から見た世界の中で、世界から見た日本の中で、日本から見た見た福島で、私はどれほど水に恵まれた環境にいるのかよく理解できた。それは奇跡とも言えると思う。

毎日の奇跡のために、たくさんの方々の努力があることを思い出したことも、私にとって大切な機会となった。小さくて、当たり前のことだけど、水の出しっぱなしはやめよう。水をできるだけきれいに家から送り出そう。家族にも声をかけてみんなやっけていきたい。水の始まりと終わりを忘れずに、感謝の気持ちを忘れずに、暮らしていきたいと思う。

入選

猪苗代湖に繋がる未来

「水」と聞いて、あなたは何を連想するだろうか。私は、日本ならではの海や川、湖が目に見える。水は、人間が生活していく上で欠かせないものである。もちろん、飲み水として使用することもあれば、手を洗う時、洗濯をする時、料理をする時など、様々な場面で水を使用する。蛇口をひねれば、綺麗な水が出てくる。そしてその水を飲むことが出来る。そんな水について考えた時、いつもどおりの「当たり前」は、気付けば数多くの「感謝」に変わっていた。

私の住んでいる福島県には、福島ならではの大規模な景色を眺望出来る、猪苗代湖がある。果てなく続く水平線に、太陽の下で光輝く水面が魅力的。福島県民にとっては、誇らしい、県の象徴とも言えるだろう。そのため、毎年たくさんのお客が猪苗代

会津若松市立一箕中学校 二年 湯浅 心結

湖へと訪れる。私は、幼い頃からそんな猪苗代湖が大好きだった。私も、実際に訪れたことは数えるほどしかないものの、夏には水遊びをしたり、冬には白鳥に餌をあげたりして、忘れられない思い出があった。また、車で通りかかった際には、遠くからでも見て取れる美しさに、何度も魅了されていた。だから、私にとって猪苗代湖は、とても特別なものだった。

猪苗代湖の始まりは、約三十万年前にも及ぶ。山の噴火により水がせき止められ、その水が盆地の低いところにたまり、湖となったそう。現在では、水力発電やかんがい用、水道水の水源としても利用されているほど、貴重な財産とされている。

その猪苗代湖の特徴といえば、酸性の湖であることだ。しかし、近年、中性化が大きな問題となっ

いる。中性化が進行してしまうと、自然浄化機能が低下し、大腸菌群数といった菌の増加など、湖全体の水質の悪化が懸念される。この原因としては、私達の、普段の生活排水。一人一人の生活排水の影響によって、湖に流入する川の酸性濃度が減り、中性化が進んでしまう。つまり、自らの手で猪苗代湖を壊してしまっている、と言っても過言ではないということだ。大切な、大好きな猪苗代湖を守りたい。もっとたくさんの人に猪苗代湖の美しさを知ってもらいたい。そう思った私は、猪苗代湖の水を綺麗にする解決策を、自分なりに考えてみることにした。そして、私が出した答え。それは、「誰もが水に感謝していくこと」だ。水に感謝すれば、水の大切さ、水を使用出来ることが当たり前ではないことに気付かされる。それが、一滴一滴を大切に使うことに繋がるのだ。今、私達が水を使用出来るのは、色々な人が、水のために一生懸命働いているから。水の安全を守るために、苦労と努力を重ねた誰かがいるから。そして、猪苗代湖という自然の恵みがあるからだ。世界には、安全な水を飲めない、水不足の

地域も少なくない。だが、私達の地域では、水不足になることがほとんどない。それはつまり、大きな大きな、自然の恵みがあるということだ。美しい自然に囲まれ、大好きな地元の綺麗な水が使用出来る。そのことは、決して当たり前なことではないはずだ。だから私は、猪苗代湖の素晴らしさ、尊さ、美しさ、そして何よりも大切さを伝えたい。少しでも多くの人が、水の感謝の心を持って生きていけるようになるために。

毎日毎日、何気なく使っている「水」。しかし、水の大切さに気が付いた時、誰もが水に感謝するようになる。そうすれば、猪苗代湖はもちろん、他の湖や海、川まで、自然が全て守られていく。今よりもさらに輝きを増す。こうして、日本の自然は、猪苗代湖は、後世に伝わっていくのだ。猪苗代湖が福島を、時代を超えて繋げていく。それが私の望む未来。たくさんの方が、水に感謝し、猪苗代湖を愛するようになりましょう。

第45回「全日本中学生水の作文福島県コンクール」の概要

今回は、県内の中学校20校から675編の作品の応募があり、その中から入賞者15名、学校賞6校を選定しました。

<応募作品数>

(単位：編)

中学校名	2学年	3学年	計
福島県立会津学鳳中学校	88	0	88
会津若松市立一箕中学校	3	3	6
いわき市立植田東中学校	17	11	28
いわき市立小名浜第二中学校	8	2	10
葛尾村立葛尾中学校	1	1	2
郡山市立行健中学校	7	1	8
相馬市立向陽中学校	0	1	1
郡山ザベリオ学園中学校	6	4	10
須賀川市立第一中学校	15	24	39
須賀川市立第三中学校	0	52	52
富岡町立富岡中学校	1	0	1
相馬市立中村第二中学校	0	1	1
西郷村立西郷第一中学校	64	0	64
塙町立塙中学校	9	14	23
南相馬市立原町第三中学校	12	17	29
いわき市立藤間中学校	1	0	1
福島大学附属中学校	1	0	1
福島県立ふたば未来学園中学校	1	1	2
いわき市立三和中学校	14	1	15
矢吹町立矢吹中学校	156	138	294
計	404	271	675

(学校名50音順表記)

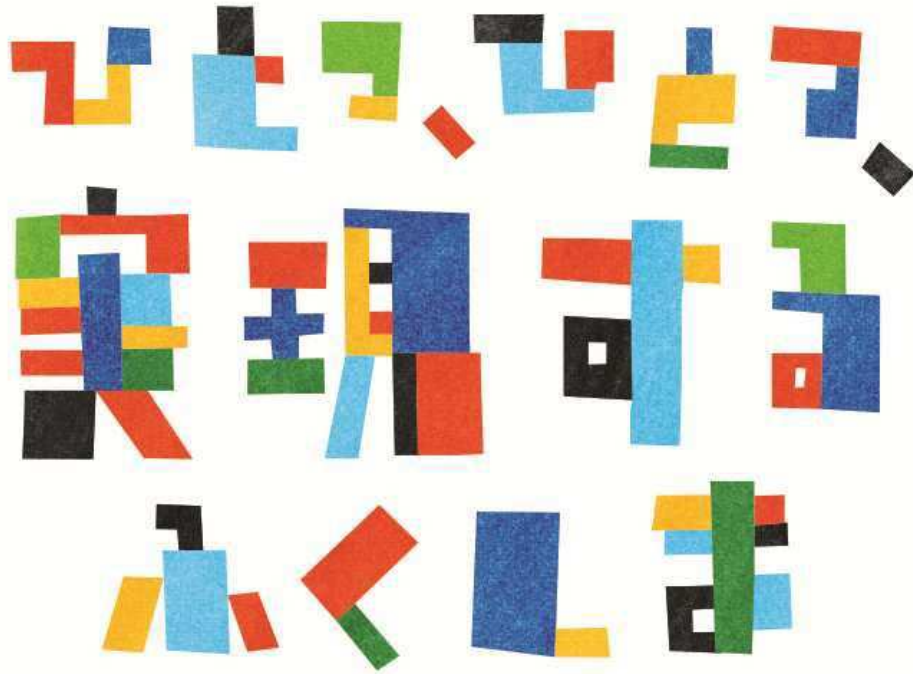
<学校賞の授与>

優秀な作品を多数応募した学校や、コンクールに積極的な取組をした学校に対し学校賞を授与しています。今回は、以下の6校を学校賞に選出しました。

**福島県立会津学鳳中学校、会津若松市立一箕中学校、葛尾村立葛尾中学校
南相馬市立原町第三中学校、いわき市立三和中学校、矢吹町立矢吹中学校**

(学校名50音順表記)

参加していただいた中学生の皆さん、そして御協力いただきました先生方に、厚くお礼申し上げます。このコンクールは、来年度も実施する予定です。たくさんの御応募をお待ちしています。



福島県企画調整部

復興・総合計画課

電話 (024) 521-7123

HP: [福島県 復興・総合計画課](#) で検索

※ふくしまの水に関する情報を掲載しています。

本事業は森林環境基金を活用しています